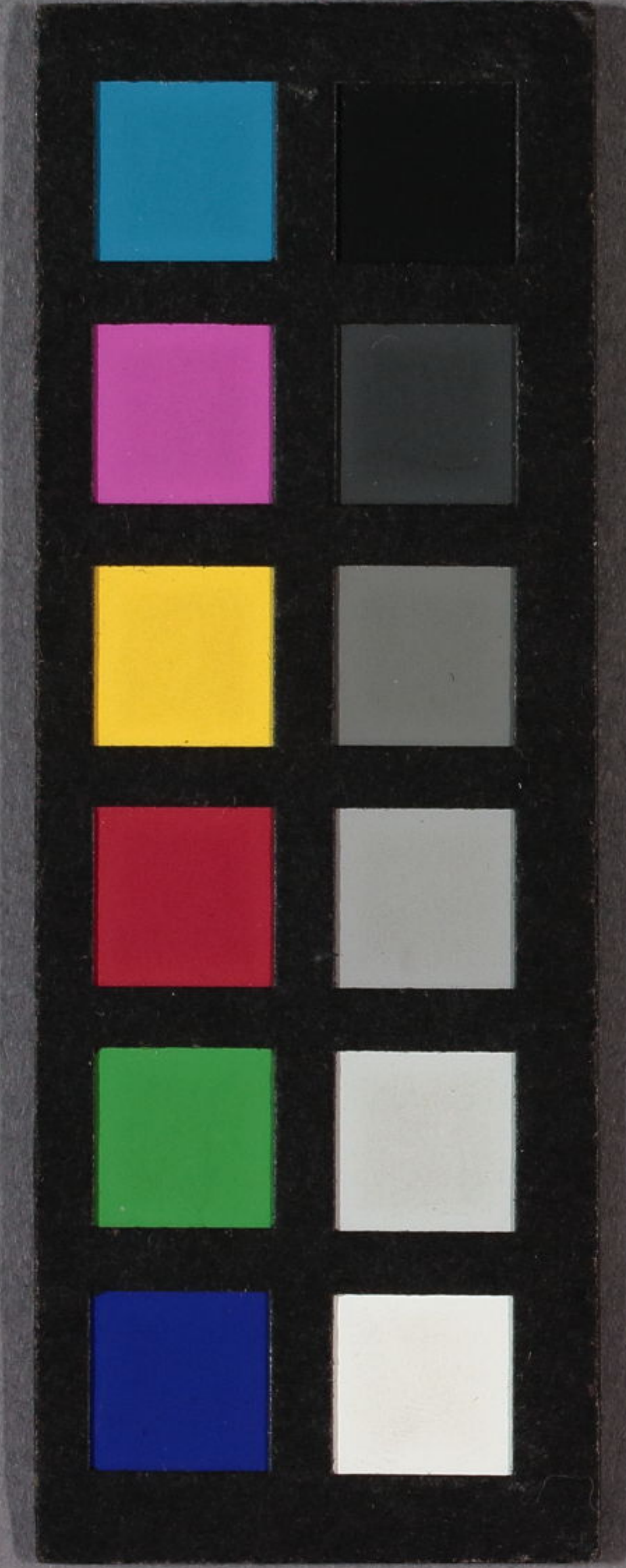
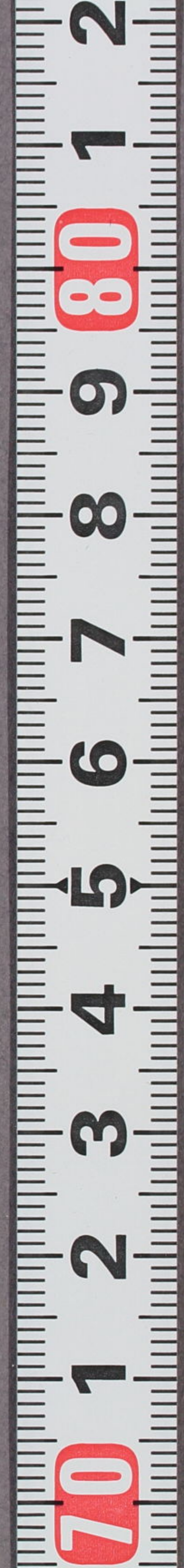


掌中新五百題

初編

全



掌中新五百題初篇

田喜菴護物輯

春之部

立春

春の川や梅とさうらうさうらう 指の先

士朗

初春

春の初よえんそむらさきのつらね

樗良

今初春

日のひらきとさうらうやこいさきしりさのま

柗儿

花春

花のこころに秋あつさゆのふねをとり

蒼虬

元日

えりやさきのみよまをさし ねりつけ

移竹

初日

初日新さる也 山田ハ鶯の也

芦舟

初空

初空也 糸越とく可灯を志めす

冬麦

初鳥

昼くく 畑あきく 土川わくく

班象

若水

若水也 梅のあきく 菊結露

二柳

初曆

土川曆はくく 死ぬ只あきく

蓼太

初夢

初夢也 ありくく 家系 枕

漫々

書初

書初小史邦ノ渡 せん 恋

冬麦

門松

松まきく 人のうけさ 小菰うね

斗入

蓬来

くろくぬき 糸蓬菜ハ父と母

亀六

水祝

嫁とりの水祝もろく 冬

冬彦

萬歳

万歳り 持あきく 新白

綾彦

猿曳

猿引ニサねとん ねりきり

浦人

子日

小鳥あき 門も那中の子日色

乙二

小松引

老り身や杖よむま 小松引

樗良

七種

粥くさのりよ 一色ハ花もろ那

佛仙

若菜

若ハる那 若菜よめれ 畑のへり

完來

芥

秋頃のうらやまのやぶる芥

椿堂

芥

久らさや芥もてゆひー芥の夫

保吉

飾焚

夜の焚ふとんとのゆとささり

尺艾

養父

養父入や枕の逗のぬよ逢

白雄

御忌

おにま女や系とあうり御忌詣

藍村

余寒

簑虫の不性よおまふ余寒ふ

漣漪

春雪

春の雪とらけふらふのそえと後

平角

氷雪

秋のそ〜氷雪の衣ふ〜知りぬ

政二

残雪

消のそ残雪ふと捨ふ子供う船

士朗

雪解

白波とありり波乃雪と融け

閑文

長閑

波ふふ庵のりら〜も果たり

春鴻

陽炎

陽炎やぬら〜るのそ〜社

其翠

糸拵

いと拵ふけ〜ける舟の染せん糸

白雄

霞

霞そら〜を休んと板うらや霞む

原水

春風

春風のそ果あさるの起〜出

松井

福壽州

福壽州のそ梅〜るもや後壽州

太無

梅

梅下とら家と梅の咲くよけり

普記

梅月

能くも森ぬ秋らる梅の月

青蘿

散梅

ほやくと梅らる秋の尾うね

樗堂

柳

えくとも西をもむらぬ柳うね

不騫

青柳

柳もやまきし後よとく舞

士朗

梅柳

梅もめて柳ハち乃夕う那

保吉

椿

鮒のとも梢の揺ささふりり

眉山

木芽

相の芽はまよ一葉の秋と似似

冬彦

春草

まきまのうへと流りぬる日敷うき

曉臺

草萌

まよ戸やまのさゆも前歩海

乙二

落臺

うし形や老て花さく落の蒼

五明

土華

碎こもよ梅もやあさや土華

冬彦

百千鳥

常りよ似てぬるもよ百子鳥

士朗

鶯

まを里よ常りやの小笠うき

瓜坊

雲雀

むらり野や屋うきとすん二人連

春鴻

駒鳥

駒もや峰うきとちりん飛

柳居

新古今

四

響

うそ傳や響の破まきと夜うら

圖南

猫戀

されこそ猫も恋のむい月

士朗

白魚

白魚やすこしぬりても案え

成美

蜆

ひらぬハ松のこもりとる

昆明

海苔

海苔く免と鷗くもくちりやと

乙二

衣更着

さけくもや唐へも舞ふ鶴の塩

冬彦

初午

初午やその程うりよ日のあさる

蕪村

新能

芝結の火うけをともや町をらん

仕侯

涅槃

涅槃と云やわろくと鳴ハ何をもと

月化

彼岸

お梅ハさるく彼岸の入りくれ

大甕

二晁

初日もとぬ旅麻よ二日晁

升六

出代

出代りの馬年そのりよりくれか

五明

風巾

切てやるとあれやいうのあり

曉臺

朧月

朧めてサ日何とりり 松の月

士朗

春夜

春の夜やまると何とるさる砂子

曉臺

春雨

春雨や昼ハいらのもけとるの

成美

五十一

五

春山

春の山に松ハ松ハ 春の山の山

來賀

山焼

山焼や春のふとる 春の山

白雄

春野

春の野や春のふとる 春の野

春彦

春水

春の水や春のふとる 春の水

月居

紅梅

紅梅は春のふとる 春の梅

士朗

花待

花待は春のふとる 春の花

春彦

初花

初花は春のふとる 春の初花

保吉

初櫻

初櫻は春のふとる 春の初櫻

樗堂

系櫻

系櫻は春のふとる 春の系櫻

石芝

連翹

連翹は春のふとる 春の連翹

巢兆

春日

春日は春のふとる 春の春日

葵亭

蒲公英

蒲公英は春のふとる 春の蒲公英

春鴻

茅花

茅花は春のふとる 春の茅花

可都里

芦芽

芦芽は春のふとる 春の芦芽

莎笠

接穂

接穂は春のふとる 春の接穂

白雄

菜花

菜花は春のふとる 春の菜花

桂五

早蕨 子厥や十日のぬり十の指 存義

萩菜 苗木の節と山ふそこの萩菜が 巢兆

繁縷 やと鳴くまをくふても巢はくう 輪之

畑打 畑歩ふこのまのまのうりひり鳴 蕪村

苗代 まのやま苗代まのあうらま 保吉

鹿落角 鹿老て訓あふ角もる落守が 全

雉子 妻乞や一夜ふ雉子の山うのま 曉臺

帰雁 とうゆくとすれと雁根にまのう 春鴻

曳鴨 小甲よあふあふてもひく小鸭うま 乙二

引鶴 身のうへとまをまのうのまふ引 笛と

乙鳥 乙鳥のまをまてあうくみやこが 蓑太

鳥巢 あうらこまをく巢はくまをう蕨の奥 閑更

雀子 雀子やまのあふまをう死あうり 百明

初蝶 山嶽のちんさくもあふふさう 白雄

蝶 移る蝶あまをまのうのうらう 佛仙

蜂 蜂の巢も人まのあふあう 白雄

蛙子 久る子の牛よ喚るゝ家るひん 葛三

蛙 舟りけてさくやうと田の夕蛙 典洲

蛇出穴 蛇も穴出るよ山菅いろ久と 孤山

田螺 あくめそ山りけまのう鳴田中 甘好

弥生 鶯峯の喉をれてり 弥生 葛三

鷄合 鷄合眼もんくは来て衣もえ 曉臺

曲水 曲水やま〜歌乙多ハ波とらむ 柗儿

雛 小嫂の袂えさひ〜むまの格 冬彦

汐子 百ちりり小家と見えは 汐子 成美

峰入 峰入や葉よか〜と 白雄

別霜 厚少危のち〜ハはぬりし 別霜 仝

永日 永さ日や帆影のさ〜 巡り 椽 吳老

春海 い〜ありと 春海 鴨起とま〜の海 葛三

花 花のあも〜と 花 ぬ日影 仝

花雲 甲のうへふか〜と 花の雲 柳居

花雲 花をて〜と 花の雲 櫻堂

花雨 花をよきる 揚くさき 雨の中 重厚

花雪 花の雪ふまゆふりし 夜ふゆり 乙二

花見 花よきまきくむらふらふありすまに 完来

花守 花守のちかきもあぬ 盛火 青蘿

散花 ちれもてむや花よきりされに 鉄船

櫻 二三日ちかきもあぬ 梅六

山櫻 山さくちかきもあぬ 水旱も 方廣

八重櫻 八重さくちかきもあぬ 奇彦

遅櫻 山ふりし 旁よぬれさる 遅櫻 月居

散桜 ちかき時ちかきれ時ちかき ちかき櫻 千丈

桃 ちかき形も頬白も桃もつく 甘谷

梨子花 ちかき家や梨一本の花ちかき 蘭更

海棠 海棠二日おさる 木もちかき 松

木瓜花 木瓜のちかきもさひしや木瓜の花 露堂

山吹 山吹の泥もさるものも 盛る 巢兆

躑躅 夕ぐけや水の底まで けくし 奇峰

藤

九月のさき地も似ぬや夏の花 香彦

莖

常のまよりむくますくれは 柏翠

青麥

青麦や佃とうりく 笹の家 其奥

茶摘

柿の本は瓢箪うけく柔つるは 竹芝

蚕

層々てあさ旅森の夏や蚕飼棚 宗讚

麥鶉

畑もあゝぬもふり 麦うりく 左一

暮春

暮られてうくくふ鯛ハあうりり 重厚

行春

ゆく春ハ麦よかられく仕暮りり 青蘿

夏之部

立夏

五月の夏や木屋う掃除のけこころ 香彦

卯月

卯月も夜む渙村は 夢南

青簾

青すゝぬいつも月夜ふをほさ 乙因

更衣

翌あゝぬ身として夜うえより 佛仙

拾

そらもしれ矢殺のまは 拾う歌 菑村

日傘

税に居る者も日うさをほけし 香彦

扇

ゆくまのまのまよふやるあふまは 春鴻

團扇 まつしと云雲の枝とつら雲扇成美

新茶 橋のまよも私さな新茶う那其友

筑摩祭 程白さ鳥の筑摩乃綱のうら爾更

葵祭 吳竹のせとよあひひの紀ふ樗良

灌佛 灌仏やあつとふ建一堂のお保吉

昼寝 ゆるゆるとて松風お拘の透一全

短夜 とうの夜や入よととと蟹の壳完來

夏夜 よう夏の夜にたるとものを波の音菊也

夏月 夏の月窪とふとあつとけり千丈

夏山 夏の山うけりぬとものもあし武陵

夕花 うの花や雪お笹ハいつあつ推己

桐花 空院の井戸ハるを一桐の花嵐水

稿 ちと形さ園の橋あつふけり柴居

茨花 花と針のふとひとたいたと千代尼

若葉 水又えとく尻よ折あつ若葉茅磨

青梅 青梅や物のまるとく浪牙聲來石

若楓 若楓まらもまらぬもどぬまを 吾彦

牡丹 うろくくと散けりぬる 牡丹次 成美

芍薬 一本の芍薬赤しはうりまの 樗良

葵 日ふらとく葵まらぬゆき寐まらぬ 蘭更

罌粟 すゝ縄の罌粟の付りけりぬ 蒼虬

苔花 志つらとくぬふらぬる苔の花 樗堂

杜若 世の朝をうけぬる花や杜若 太食彦

木下茂 多の房もおろくふまらぬる茂 吾彦

木下闇 下やまや丈帰るの睦しと 梨翁

復木立 奥ふささ村は出りぬる木立 益村

麦秋 人夢や麦とる秋も 月夜とく 帰來

茄子 むとくく又筥の中や 神茄子 梅人

覆盆子 さす掉よいらこあけぬ 舟の上 柳居

杜鵑 子規身をうけらぬの木なるうぬ 万和

老鶯 常の老りぬ 秋もあらしり 得雨

鳴鳩 かんこもあけや枯木の二とらる 士朗

行子 多心赤の有ともあつたけり子 木僊

鶉 鶉の鶉の鶉をると知く衣まこ 春鴻

鶉飼 かあしこの昼もうをぬ鶉川が 表丁

松魚 ぬれ色よ夜ハカのくくと神 鯉 阜池

蝙蝠 久ほくと赤よのものよまの産 寒崖

蝸牛 根ふくも草下河くくと地牛 白圖

子子 子子も仏性ありや 檜 ちる 登彦

蚊 蚊平起て蚊しと蚊の糸息が 茶靜

蚊遣火 船くハ大船流り故やアしり那 岳轆

笋 井の子や水鶉やアるも盗まらる 壽翁

蠅 赤髪を撃うしり 蠅まらる 蘭更

幟 燕の子よんをまらり 幟の那 柳居

粽 こそくくと夜あよかとく 粽が 泉兆

競馬 ちよふ人よとえとや 藤ぬ競る 五明

菖蒲 葎分るくや免さしと新端が 蘭更

帷子 朝戸出や帷子まらる 樹の雲下 篤光

梅雨 ハき痒梅もあつてはふり 伯先

五月雨 けふの夕飯をゆきぬかき 玉泉

五月雨 うつゝあや草の紫あける五月雪 保吉

早苗 苗の色故のあさ里のすうもや 乙二

田植 川上の田うゑはけりやまの雨 葛三

早乙女 ふ乙女の夕日おうんで久しかり 曉臺

若竹 若竹と柳の月を叶ふし 曉鳥

合歡花 合歡のむさく風の節 宗讚

樗花 産神乃掃除もりかや花 樗 垂彦

栗花 栗のさけは花ひらけの産の栗 真栖

紫陽花 何らさぬ木うられてすむまゑ 五明

百合花 けふの百合のうらみと氣を 成美

夏菊 夏菊や里のまゑの門徒 岨翠

撫子 撫子とやすれうらまてあつて 苾笠

紅花 紅花と免らりてまゑの月 吐月

藻花 藻の花ハ夕の月乃かゝるる 垂彦

萍 漣のくさくさ時と 葦よりり 一草

青芦 青す流と芦のころ葉の棹の先 士朗

川骨 川骨の二もとさくや 取の中 蕪村

蓼 蓼の香の氣味よき僧の置麻が 政二

水雞 月と流や水雞あく萩の姫のく 素檠

青鷺 青鷺のりう身と知ぬ糸のく 樗堂

虫 ぼくまふんや花ひびくもの 俄る 葛三

火串 火串まき風と知る松の曇るか 保吉

南天竺 南天竺の草くちや 篠のくく 乙二

六月 六月や櫻またりくむ 杉くちと 貞松

氷室 不二とてりり 氷室の目 青牛

富士詣 小田原よ 医者のみまきよふ 一蕙

祇園會 祇園を今や僧のよひる 梶り 蕪村

雨乞 雨乞よ 糸もまきらん 糸 得雨

土用 土用の浪杵を 免ら流 土用 春鴻

虫干 湖の風くく ち月 羅城

暑 暑き日やむつ折のきし 柳の枝 塩叟

夏日 夏の戸や雀の巢まきく 夏日さる 雨塘

雲峰 三日月よかさぬけしう 雲峰 米彦

夕立 夕立やとてふ涼しき 雲峰のけ 白圖

青嵐 乙るの羽よりさそふ 雲峰のけ 甘谷

風薫 風薫る里や子母の作の契 蘭更

涼風 きよきや涼しき 魚の灯のうり 曉臺

納涼 鶺鴒いつも出逢ふ 夕すき 釣翁

清水 山名の蔓よまうけ 清水のき 菊所

晒井 晒井や翌を眺ける 仏の日 一蕙

葛水 葛水や茨を中しく 雲のき 宗讚

心太 繩むしけしきぬり 心太 み彦

簞 尖のふらとて 嘆ぬきむし 万和

竹婦人 寐て後ハ 何もおもはれ 竹婦人 一枝

夏瘦 夏やとも 恥うしきもや 角力丸 玉光

蓮 蓮のつぼみ 蓮の花 野松

夕顔

夕魚のそよ名よるのや氷の奥

雪雄

昼顔

昼うすの盞を睡るたところな

春暉

葎花

咲とくたえぬ花白きむらりか

万和

麻

丹えるるの親子すくや麻の中

蒼虬

瓜

水よりもつうま涼一瓜のいろ

樗良

复草

まらさもころうり波の打るふ

蘭更

复野

さうけかきあうや夏野の夜の丁

士朗

青田

三日舟の鯉振舞よゆくま田

春鴻

田草取

足て通る行もこれ布と二番州

み彦

川狩

川狩や鳥もくらぬ篠の響

樂水

翡翠

久せまや涼一以知とふ去居どは

吐月

蝉

子供おもけさふ増あく新の松

岱青

夏虫

冬ひろき月あふとて夏のひし

方廣

御被

か〜〜とも朔あくまん夕沙被

月居

名越被

水むらぶのそよ名越の被り那

樗良

夏果

ゆきあの水うらや〜あ〜堪

河道

秋之部

立秋

馬買りの小笠よ秋のまじり

白雄

初秋

初秋よくくとして 際みあく

可劫里

今朝秋

蜘蛛の巣よるむをくむや乃この様

存義

七夕

七夕や夕月の花ちのりもく

可劫里

星合

笹のよみ風のすもあけ早ののり

乙二

盆

天の川田舎のそとくく

乙因

盆市

もくも木もそとくく

み彦

盆

人久つて悲まのひ

春鴻

盆月

盆の月人の中よりひ

澧水

迎火

迎火や上総へむけそ月

鳥酔

魂祭

鬼棚やこの世の果と

士朗

施餓鬼

施餓鬼棚秋ハ

宗居

墓参

墓の参るはくりそ墓の瓜茄子

蘭更

燈籠

灯籠の燃るは家

み彦

高灯笼

高灯笼の燃るは

蝶夢

新五百一

六

棋待

棋待又雇もれぬ小はとけり船

雪雄

踊

踊と矢のあく町越てあとり

蕪村

花火

あそくといつら果て花火の家

義香

角力

を付とあれも負とり角力とり

花陶

残暑

もこをりとの鳴よはるも残暑

吾妻

秋風

秋もさぬ船の嵐よあまの風

乙二

稻妻

稲つまや一村後以宵の空

普記

霧

船旁の園屋へさす車う那

士朗

露

秋の月と似と船多し夏の露

六車

相葉

あそらうぬ人よりあそん相一葉

月居

柳散

厚鴨の足とみしりり柳

蘭

萩

夜の音やとよこれに門の萩

遅月

朝顔

朝うらの咲はくれしや萩の菴

五蓬

女郎花

けいさ木ハ赤うささけや女郎花

斗山

薄

世をまよふささけや花のむら

菊所

尾花

夕乃の家の尾花よりくれり

祐昌

萩

濃のきの萩よりゆくき家居る家

馬印

蘭

月落して先知る葉の白ひの糸

士朗

芭蕉

破い糸をんこのやとこのくさし

樗良

野菊

引くをりや朧きくよ言丸太

登彦

秋草

秋のくさ人を初ぬハなうらまし

葛三

草花

曉しきよさきくありぬ牡丹の花

乙二

早稻

よこ里や門口やとも子稻日和

梨翁

冬瓜

冬瓜汁を也の瘦を初ひりり

白雄

西瓜

用うはしゝ西瓜をいやす縄くさり

吾妻

虫

虫あくやあさりよ人もあひやうよ

奥文

蝥

こりくはくおと瘦はをきも出さし

不騫

松虫

まのちね松虫あつしゆく人り

宗讚

鈴虫

鈴虫よあさりくさくすこれか

井六

寗馬

ゆき夜やまこあられと啼ひし

尼 猪九

蜻蛉

響り子の海に飽てやとんあらし

玉珂

蟪蛄

引よきて蟪蛄うつりぬ下り草

吾妻

鯛

むらむらや盆もさるる墓の松

蝶夢

秋蟬

松のせき啼つて秋よりつる声

青蘿

落鮎

夜ありしや落ちて人智測の鮎

白雄

鯛引

けしきもともむちけくいと水

万和

八朔

八朔や旅ハ床ぐりのお志ま

曉臺

放生會

松よりし月夜も千も放生會

白雄

待宵

まの宵は昼の曇るよあやむちり

保吉

名月

名月や夜ハ人すまぬ峰の茶屋

蕪村

今日月

古寺のまのときをゆるるるの月

白居

良夜雨

名月や何をさるる不獲乃雨

土朗

十六夜

小いそ浪をとりいさよふ月夜を

杜蘭

月見

月よもよむ葎のやとのこころ虫

存義

月

月よるやぬちりるもし蟬の葉

還古

雨月

心細し浪ありしそのぬれ月

擗良

秋月

名ふりふ夜ハあやむけり秋の月

雄淵

初汐

まの汐や水さす門のちるる

棹歌

秋日

あきの日短くふるふれく月夜か

木僊

秋夜

苗あめの畑とあつとや 夜乃炮

允堂

長夜

あきと夜や子よをあつとく 鶴の寝る

袁丁

夜寒

寐てとや寸 寝や秋寒の灯の匂

杜蓼

肌寒

新息えく 肌寒と夜の柱う那

蘭更

朝寒

朝寒の万年まきよう 秋寒の那

武山

秋山

かきとあきと 秋の山

騏道

野分

市人の夜急 官りて民時分うあ

蕪村

擣衣

洛中よ葛衣もえは 小夜砧

寄丈

紫山子

抱ふ日も持とて 老ひかへて

鳥醉

鳴子

寝ておけえ 猪足のちうふ 鳴子

武陵

引板

山後のとれを 使りや 引板の音

白養

縮

縮の秋糸も 雀乃あつと那

得雨

田刈

秋田刈やめて 体ふふ身てもあ

蘭更

于穗

縮うけり 核も持し 山家う那

馬印

粟

粟畑よ 何をまは 粟を于は

一蕙

芋 尻屋よの故をうつ芋の紫くけり 巢光

零餘子 雀類もこれりも来とむむこちる 吾彦

柿 枅うこし價も里の嗽う南 保吉

葛 居る鳩をふをりま葛の徑火 乙因

初紅葉 初もみち桑粥の粒の見え来ふ 表丁

芙蓉 立いてく芙蓉の凋む日なり 白雄

刈萱 刈取の菊刈萱ひとりその色よ 曉臺

雞頭 鷄頭や多うもとこいりあき 青蘿

花野 市杖よ花野の嵐あく日う那 春鴻

秋野 万さの野や吹くさうの霧何の霧 保吉

鹿 火のふけをんぞてやうう山の藤 未耜

初雁 とう川層や月一雁よあしとくす 士朗

雁 沙岸の嵐とまや一雁の飛う 巴童

鳴 鳴る川や多うささの風情あま 月居

鶉 鶉をく居如得穂よすくむ返 棹歌

啄木鳥 木つささの月不驚く木るりか 樗堂

鶴鴿 せとまふの笠木と走る新糸うね 表丁

新米 ちのちのちよ笑ふうささささささささ 富屋

新酒 さえて侍の場うさげあさささささささ 酒 瀬陵

重陽 遠ふもあささささささささささささ 士朗

十三夜 ささささの月も縁さうすささ 今

后月 ささささささささささささささささ 葛三

秋雨 火とりとともとも夜となせ秋の夜 卧史

露時雨 露ささささささささささささささ 蘭更

秋時雨 森て耳のあさささ秋のささささ 玉光

露霜 ささささや水さささささささささ 騏道

紅葉 紅さささの傾城町をささささささ 三巴

菊 ささささや咲きて来てささささささ 梅彦

木實 冥山の位ささささささささささ 鳥碎

栗 夜さささのささささささささささ 草圃

椎 さささささささささささささささ 百嬰

菜萁 ささささささささささささささ 白雄

九月盡	繩も居ぬ昨の家や	九月	そ	冬	有則
暮秋	馬下アアくる士ウウれも	秋の	暮	廣陵	月溪
行秋	り秋の塵ともあぬ	こ	省吾	成美	鳥明
梅嫌	冬籠るもとりあぬ	梅も	廣陵	成美	鳥明
菌	あるもてりもあや	菌	鳥明	成美	鳥明
細代赤	罪はくる坊とけり	細代	成美	成美	鳥明
落水	二三尺秋の初こ	水	月溪	成美	鳥明
松露	松露のるや新	有則	有則	成美	鳥明

冬之部

神無月	小笹吹風も何	か	巢北
神苗主	灯もととて	神の苗主	全彦
蛭子講	りの比喜紙ハ	蛭子	夢南
玄猪	采二升小萩	玄猪	葵太
達磨忌	達磨忌や	蜂友	蜂友
大師講	るの尾に	大師	喜齋
十夜	ハ玄湯も	十夜	月化

爐開

炉窓也市よをきや侍松の坊

重厚

口切

口切や友をまの葉の敷あろ

川長 不自

巨燧

長明り分的坊より 巨燧

柳凡

冬構

親連年ニ冬中りり 冬うまえ

水父

冬籠

枕もあしぬ木奥や冬こも

百池

埋火

埋火や茶よ私名くくももと

吾彦

火桶

有ふおさそのあふりする 火桶

儲史

火鉢

いろくの袖にゆる 火鉢

吾彦

炭

お付て炭折産のはしらう南

椿堂

帝衣

赤うきこぬ裏とと老平りり

定雅

蒲団

子烏鳴水坊へもふふとんか

百郷

頭巾

ましるも也取巾あしりのしほ乞

丈龙

納豆

納豆汁五三の相の小き管

葛三

山茶花

山茶花也孫よ日のさたうてん

旭路

枇杷花

くされ絲をふふくはるくむこの花

佛仙

茶花

茶の花の十株も並ふ日南うあ

若翁

新五百一

共

歸花 引よきて折らてるりり之り花 瓦全

冬牡丹 降そく乾多うれや冬牡丹 一扇

水仙 水仙のふさふさあををあさものは 花川

寒菊 嗅けけくき菊折よ這入りて 希言

枯尾花 うれ尾花をれてうけさす 遊りな 李冬

冬草 忘まきようさうけあまき冬の小草原 守一

枯芦 山うけや灯ハと海くとうゆ芦 徂牛

夾袴 愛まきさや百よてせまる 貞もり 蕪村

大根引 笠さしん旅人きくく大根引 其堂

蕪 おもひしう屋のうくくろの瘦き 白雄

木葉 十月の旅ねいふ木葉ふる 故友

落葉 ありく歌くきよのうくく一旅もの戸 罪喜

冬木立 加る麓うえる片敷うけや冬木立 茶陵

枯野 融の小鳥をく居るうゆ飛うる 蕪村

冬山 冬の山戸ふをさゆりてくゆりて 嵐丈

水鳥 ありるの湊あくむとさのきり那 吾彦

鴨 濡あゝる昼ふらうや 後の鴨 弄山

鴛鴦 おりひ羽のかさあそひつ 風の鴛鴦 車蓋

千鳥 糸耳と子鳥とをうり 志るぬねを びん

寒苦鳥 冬々苦鳥とすふ 昼ハあくれぬら 葛三

鶺鴒 湖のあけあひの歌多 みをけらぬ 乙二

冬蠅 冬々冬々の香とをすれ 以よ冬は 白雄

鰾汁 君の代の人華ひりり みるく汁 篤老

生海胤 生海胤うじ 乾酒あんとす 焚りり 春鴻

杜蛸 ちりり冬々むさき 冬々冬々の杜蛸 保吉

網代守 阿しるもる 鼻の比ん 朝あけ 雨麥

霜月 冬々冬々のあひの 冬々冬々の山 玉珂

冬至 冬々冬々と知て 冬々冬々の小里 冬 登丸

髪置 かき冬々うり 通昭も 冬々のむら 丸簾

神樂 冬々の冬々の 冬々冬々の神楽 冬 万和

吹草祭 冬々冬々 冬々冬々の吹草祭 冬 輪之

御火焼 冬々冬々 冬々冬々の御火焼 冬 一草

鷹 宿の燈也すえそむける夜の衣鳥 春鴻

鷹狩 新川也衣鳥狩の体を鳥の影 白雄

煖鳥 とふかくり夜ハ長きものぬくもの 無説

師走 日ハふつとるもの酒のむ歩走也 衰丁

川ひらり 新糸のかくま碎せり川をこり 石芝

臘八 臘八也めんげり水よりくの時 大樗

仏名 僧達もかくてハせりくしハ仏名 曉臺

事始 り始業来りつきの床よりん 千柳

入寒 底切りすも也湖ぬのきも入 松兄

寒雨 大名のあつらハ知しハ 雲々のぬ 玉珂

寒月 寒月也ハ鷹の宿もするなり 乙二

薬食 うんよるも一ツ老りくまうらひ 吐月

乾鞋 かく鞋やうてあつら 人の老 車蕃

年内暮 年のうらハ虚空僧也より日の長さ 柳八

追儼 鬼を追ふ死るも厚き口田うら 葛三

終賣 う所也傘片も来る終り 南井

節季候

節季候の世もあはれや牛をひ

輪之

煤掃

煤もくや山崎の家萩のやと

三澤人

餅搗

餅つと梅をむくはきりすれ

梅分

衣配

僧も世よりえられとまきぬくも

平角

年市

年削る絶あゝ買んくれの市

吾夫

年木

年木はむあゝりやあはれの杜あ

和調

年忘

年忘廣州の鶴をこんりけん

樗良

古督

古志よと十月の菊よりとまれば

夢南

年用意

子り家の洗濯丁寧やと一月を

吾夫

春待

まき川やとと魚小あはれあ

全

來春

まのくるはみか子床

存義

行年

行く年や夜もまおぬ松の風

蝸國

岡見

費しし日をそゆりもあ見うね

葛三

年籠

あまりのあはれもあはれ中一筆

如斯

歳暮

うれり年や給のあはれとあ

卓池

六年

大とくや人のあはれとあ

白居

年夜
除夜

かみよのの荒らあるそ 年の宵
ゆくやとんれそとえり除夜の梅

登彦
樗良

